

醤油のまち・野田／春の散策旅!

●久喜麗和会と春日部地区浦高会で!

昨日は午後から久喜麗和会(奥貫和夫会長)と春日部地区浦高会(三輪昭彦会長)との合同企画・小旅行「醤油のまち・野田／春の散策旅」を楽しみました。久喜麗和会から6名、春日部地区浦高会からは昼が12名+1家族、懇親会には合同で22名が参加してくれました。風はとても強かったものの、雨は野田市駅からもり知りしょうゆ館までの3分間だけと恵まれました。コースは当初の予定通りに…。

* *

「醤油のまち・野田／春の散策旅」

【旅の楽しみ】

1. 「もの知りしょうゆ館」で醤油の製造工程を学びます。
2. 「野田市の近代歴史遺産」をガイドの方々に説明をいただきながら散策します。
3. イタリアン「コメスタ」で久喜麗和会と春日部地区浦高会との懇親会を行います。

【日程】2016年4月17日(日)

12時15分～19時45分野田市解散予定

12:15 野田市駅改札 集合

12:30 もの知りしょうゆ館御用蔵見学(見学15分)

13:00 もの知りしょうゆ館(見学約1時間)

14:15 もの知りしょうゆ館出発
〔徒歩20分〕

14:30 上花輪歴史館(見学約1時間)

15:35 上花輪歴史館出発
〔徒歩15分〕

15:50 興風会館、茂木本家など観光ボランティアの方に案内いただき

16:20 野田市市民会館(見学約50分)

17:10 野田市駅
〔タクシー10分〕

17:30 懇親会場(コメスタ予定)到着
(懇親会約2時間)

19:30 懇親会終了〔タクシー10分〕

19:45 野田市駅到着・解散

* *



〔もの知りしょうゆ館〕



〔上花輪歴史館〕



〔野田市市民会館〕

最初に「御用蔵」へ。
◆御用蔵

この御用醤油醸造所(通称「御用蔵」)は、2011年(平成23年)に野田工場内に移築されたものです。移築前の御用蔵は、宮内省(現宮内庁)にお納めするしょうゆの専用醸造所として、1939年(昭和14年)に江戸川沿い(千葉県野田市中野台)に建設されました。老朽化で大規模な補修工事が必要となり、70年の節目に移築工事を行いました。移築にあたり、しょうゆを仕込む木桶、屋根の小屋組み、屋根瓦、石垣、門などは移築前のものを使用し、原形に近い形で再現しています。御用蔵では、現在も宮内庁にお納めするしょうゆを醸造しています。また、伝統的なしょうゆ醸造技術や1939年の御用蔵の建設当時の道具や装置を保存・展示しています。

* *

元キッコーマン職員の石塚さんのご案内で「御用蔵」見学を楽しませていただきました。ここは土日が休館ですので、今回は特別でした。約15分の見学の後は「もの知りしょうゆ館」を楽しみました。

◆もの知りしょうゆ館

もの知りしょうゆ館では、しょうゆの製造工程を映像や展示で紹介しています。もろみの熟成の様子やしょうゆの色・味・香りを体験でき、ご家族や団体での見学や小学校の校外学習まで、しょうゆの醸造についてどなたにも楽しく理解していただくことができます。

* *

大豆、小麦、塩を原料として醤油が出来上がります。15分のビデオを見て、仕込みから絞りまでの工程を約35分で回りました。お土産もいただき!



〔御用蔵外観〕



〔原料処理機器〕



〔压榨・火入れ・詰め〕



〔工場見学スタート〕



〔参加者で記念撮影〕

◆上花輪歴史館

上花輪歴史館(かみはなわ れきしかん)は、江戸時代、上花輪村(現千葉県野田市上花輪)の名主であり醤油醸造を家業としていた高梨兵左衛門(たかなし ひょうざえもん)家の屋敷や、代々伝わる年中行事、古文書、物品を受け継ぎ、保存公開している博物館です。平成6年(1994)の開館当時は千葉県指定名勝、平成13年からは、敷地全体の景観を名勝「高梨氏庭園」に指定されています(昭和の庭園としては全国初)。

* *

素晴らしい庭園を学芸員の方のご案内で散策。次は近代歴史遺産の街並みへ。ここからは観光ボランティアの清さんにご案内いただきました。

◆興風会館

最大652人の客席を持つ大講堂や集会室、地下ギャラリーがあり、市内の文化、体育関係の事務局がおかれています。昭和4年(1929)の竣工当時は、千葉県庁に次ぐ大建築であったといわれ、建築様式はロマネスクを加味した近世復興式のもの。設計者の大森茂氏は、神田駿河台の明治大学旧校舎を設計した人で、デザインの巧みな建築家として知られています。平成13年に耐



〔興風会館外観〕



〔今でも現役の大講堂〕

震構造に改築し、竣工当時の外観を再現しました。平成9年に国の『登録有形文化財』に登録されました。



〔歴史館の門長屋〕



〔学芸員さんに説明を受け〕



〔茶室・眺春庵〕

◆茂木本家

茂木本家は江戸時代から野田の地で醤油醸造を営んできました。茂木本家住宅は十一代茂木七左衛門氏が宮大工の流れを汲む建築家の佐藤良吉氏に設計を依頼して、関東大震災後の大正15年(1926)に建築されました。書院棟と居住棟及び玄関棟から構成され良質な和風住宅である主屋を中心とし、南に庭園、東側に南蔵・北蔵、西側に旧仕込倉や旧米倉、稲荷神社、北には旧漬物倉や旧門番棟が配され、周辺は北側道路に面する正門、柿渋を防腐塗料に用いている板塀と、経済産業省により近代化産業遺産に認定された煉瓦塀で囲まれています。

◆市民会館

茂木佐平治邸(醤油醸造家)として大正13年(1924)頃に完成しました。昭和31年(1956)10月、当時の野田醤油(株)を経て市に寄付され、同12月24日に市民会館として開館しました。庭園に囲まれた純和風の趣きのある家屋は、瓦、柱などすべて特別に注文したものです。

* *

歴史建造物を堪能して懇親会場のコメスタへ。ビールとワインで野田の味を大いに楽しみました。



〔キッコーマン稲荷蔵〕



〔茂木本家〕



〔大正6年建築、春風館道場〕



〔市民会館の薬医門〕



〔市民会館入口〕

